

大菱形骨単独骨折の1例

お 生 越 英 二 ま 庭 昌 人
ご し え い に わ ま さ と
じ 馬

キーワード：Trapezium, Fractures, Carpal bone

要 旨

今回自転車走行中転倒，大菱形骨単独骨折の症例を経験した。大菱形骨単独骨折は稀な外傷であり，早期に治療を行えば予後の良い骨折であるが診断が困難とされ，初診時に見逃されることも少なくないので注意を要する。大菱形骨単独骨折が疑われるなら CT，MRI も考慮すべきである。

はじめに

大菱形骨単独骨折は比較的稀な外傷で初診時に見逃されることも少なくない。今回我々は、大菱形骨単独骨折の症例を経験したので若干の文献的考察を加えて報告する。

症 例

症例：63歳女性

主訴：左第1CM 関節部痛

既往歴：特記すべきことなし

現病歴：自転車で走行中ハンドルを握ったまま転倒し受傷，疼痛が軽減しないので翌日当院を受診した。

初診時所見：左第1CM 関節掌側部に腫脹と圧痛を認め，左手関節の背橈屈時に同部の疼痛が増強

した。

X線所見：左大菱形骨橈側結節骨折が認められた。母指対立位で前腕より1ヶ月ギプス固定とし1ヶ月後にX線検査をおこなった。以後2週間ギプスシャーレを装着し，6週間後からリハビリテーションを開始した。受傷後3ヶ月現在骨癒合は良好で疼痛は消失し，ADLに支障はない。

考 察

大菱形骨単独骨折は比較的稀な骨折で手根骨骨折の約5%と報告されている^{1,2)}。早期に治療を行えば予後の良い骨折であるが診断が困難とされており，初診時に手関節捻挫と診断されて見逃されることもある^{3,4)}。大菱形骨骨折はその骨折部位から体部骨折と稜骨折とに大別される²⁾。本邦では三須ら⁵⁾が大菱形骨骨折を受傷機転により分類している。受傷機転には直達外力と介達外力があり，母指内転位で橈側に長軸方向の介達外力が加わればその剪断力により裂離骨折や Bennett 骨折に

Eiji OGOSHI et al.

生越整形外科クリニック

連絡先：〒694-0064 大田市大田町大田イ-263-8



図1 初診時X線所見
左大菱形骨橈側結節骨折を認める

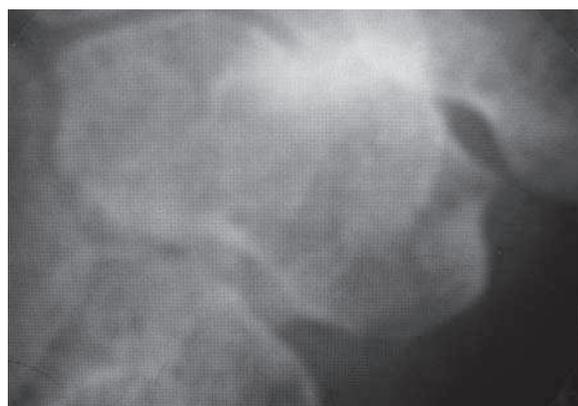


図3 2ヶ月後のX線所見



図2 1ヶ月後のX線所見

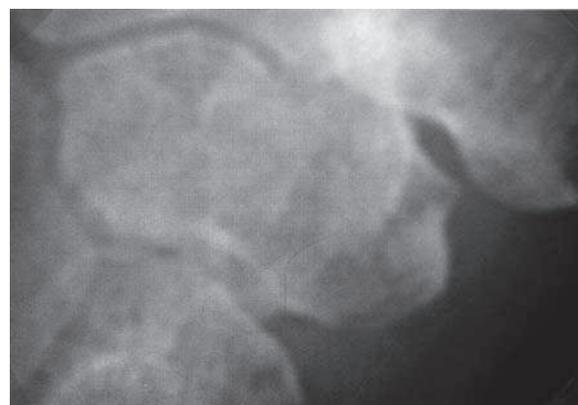


図4 3ヶ月後のX線所見

伴う骨折が生じ⁶⁾，母指外転位で長軸方向の外力が加われば，粉碎骨折や体部骨折，脱臼骨折が起こると推測される⁷⁾。また転倒や転落で手をついた際に，直達外力が手根部に加わることにより結節骨折が起こる。Palmer ら⁸⁾によると，手根部の横軸アーチが平坦化することにより大菱形骨結節部に付着する横手根靭帯を介して結節部に牽引力が働いて骨折を起こすと述べている。これら受傷機転に関しては受傷時さまざまな要素が加味されているため，いろいろな意見があり，一元的には解決できない問題である。

Walker ら⁹⁾は体部骨折をさらに5型に分類し，I型は関節面にかからない横骨折，橈側の結節骨

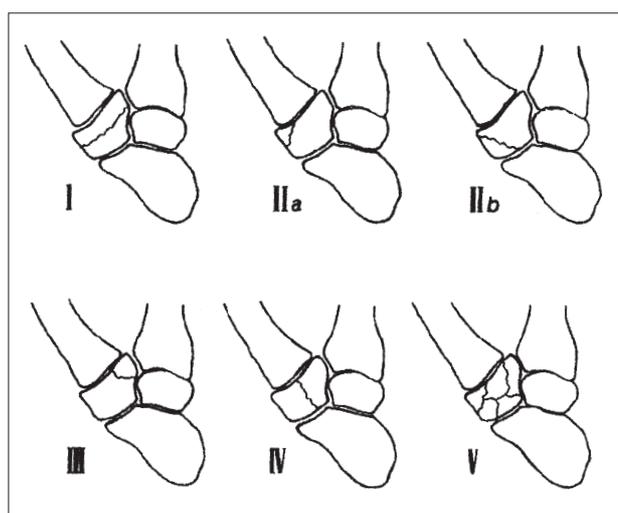


図5 大菱形骨体部骨折の分類
(Walker et al, 1988より引用)

折のうち遠位のをⅡ a, 近位のをⅡ b, Ⅲ型は尺側の結節骨折, Ⅳ型は CM 関節面と舟状骨との関節面に骨折がかかる Two-part の垂直骨折, そして V 型を粉碎骨折としており, 自験例はⅡ b に相当するものであった (図 5)。諸家の報告ではⅠ～Ⅳ型に関しては, 転位の軽度な症例には保存療法が, また転位の高度な症例には手術

療法が選択されている。新鮮骨折の予後は比較的良好な成績が報告されている^{2,5)}。

ま と め

今回我々は比較的稀な大菱形骨単独骨折を経験し, 保存的治療で良好な結果を得た。

文 献

- 1) Cordrey LJ et al. Management of fractures of the Greater multangular. JBJS 1960; 42-A: 1111-1118.
- 2) 佐々木考 他. 大菱形骨骨折—手根骨骨折の統計的観察と治療結果(4). 日手会誌 1995; 12: 51-54.
- 3) 若江幸三良 他. 大菱形骨骨折の 3 例. 関東整災外会誌 1986; 17: 113-116
- 4) 星野啓介 他. 大菱形骨単独骨折の 1 例. 名古屋病紀 1991; 22: 112-113.
- 5) 三須秀明 他. 大菱形骨骨折の治療経験. 東日臨整会誌, 6: 378-381, 1994.
- 6) Garcia-Elias, M., et al.: Bennett's fracture combined with of the Trapezium. J. Hand Surg., 18-B: 523-526, 1983.
- 7) Sherlock, D. A., et al.: Traumatic Dorsoradial dislocation of the trapezium. J. Hand Surg., 6-A: 262-265, 1987.
- 8) Palmer, A. K., et al.: Trapezial ridge fracture. J. Hand Surg., 6 A: 561-564, 1981.
- 9) Walker JL et al. Fractures of the Body of the Trapezium. J Orthop Trauma 1988; 2: 22-28.